



Title	歌
Author(s)	林田, 良平
Citation	懷徳. 1929, 7, p. 90-91
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88798
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

癡頑幸上將増邊。及老常懷孝未全。感泣拜來新靈令。先呈考妣兩墳前。

今茲六月華城奉迎龍駕。歡極而謹賦。

炭翁 林 田 翠

晴日薰風六月天。華城草木帶祥煙。歡聲滿路迎

龍駕。長記昭和己巳年。

東光院觀胡枝花

院在浪華北三里、以胡枝花有名、俗呼曰萩寺、

放生池上一橋斜。直到山門秋可嘉。露白風清月明夕。紫瀾滿地萬叢花。

四月廿九日修學院離宮拜觀のをりに

林 田 炭 翁

木立みな春のめぐみに若葉してみ園をきよくいろごりにけり

鷺森神社にて

松なみ木つどくなはてにおそざくらひともとにはふ春をのこして

山 邨 雜 詠

林 田 良 平

ひぐらしの啼くね涼しみ里ありく空にはあはき夕月も見ね

蛸にふたゝびくれば法師蟬のこゑもせはしく啼きかはり居り
ひぐらしのすでに果てしとおもふ日の夕影山に只ひとつ啼く
秋もはや瑞穂垂穂の早稲の穂にふとりけるかもしこ蠡らは
さら／＼と葉風かわける眞晝日のいなごどる手に稻の花ちる
わが目をば遁れ得たりとさかしだつ葉裏の蠡あしは見ねつゝ
あたへたる蠡とびはね追ひかくる鷄の眞秋の花こぼれけり

修 學 院 拜 觀

寺
部
君
子

行幸さへまれなりきてふ外宮のむかしかたりをきくもかしこし
大君は神にしますを人言のまゝにならしゝよもありしかな
大宮のありし昔をおもふたに涙さしくむこゝろこそすれ
上の茶屋下のお茶屋とおごそかにときあかすなりみやもりの人
とつ宮の上お茶屋にのぼり來れば菜の花十里みはらしのよき
人ら皆かしこみ行くを大庭の眞砂さく／＼音たつる哉
大石の鳥居くゞればみやしろは青葉若葉にかこまれてあり
一本の大木の櫻しろ／＼と若葉の山に咲きおくれたる